

情報収集し勉強し チャレンジする精神

私自身が前職でメーカーにいたせいか、高齢者・介護業界に入っても様々なメーカーの商品やシステムが気になります。ご入居者やご利用者、そのご家族、そして施設職員の満足度向上に繋がるものはないかと常に関心を持っています。現場から離れた今も変わりはありません。新聞を読む時も、高齢者や介護をキーワードに目を通し、関連する情報を切り抜いて、メンバーで共有したり、お世話になっている方に情報として送るなどしています。又バリアフリー展やケアテックス展、介護 EXPO 展等には毎回参加、展示や関連セミナーの聴講をし、その他各種関連のイベントやセミナー、交流会等にも出かけ情報収集をしています。

メーカーはそれぞれ業界や業種に役に立つような開発を常に行っており、他社と差別化を図り、より特徴を打ち出すために、市場や現場の声を聞き改良を重ねています。

高齢者・介護業界で施設の経営、運営に携わっていた頃、様々なメーカーや商社、代理店からの売り込みが頻繁にありましたが、どなたでも必ずお会いし、商品の PR や説明をただ聞くだけでなく、自施設の内容や特徴をきちんと説明し、弊社に合った提案をしてほしいとお伝えし、良いものは積極的に取り入れていました。



このような経験・経緯から、お付き合いのある施設関係の方から様々なご相談があり、アドバイスをさせていただいたり、こちらからこんな良い商品やシステムがありますよと、お薦めするなどしています。



これまでお付き合いしてきた様々な企業の社長様や施設長様、営業の方々のなかには、常に新しい情報をえて、自社に取り入れられないか検討し、良いものはどんどん採用し取り入れておられます。共通して云えるのは皆さん「お客様の満足度向上」「従業員の満足度向上」を常に考えておられ、人手不足への対策、働き方改革、DX に真剣に向き合って、何が自分の会社にとって大事か、先頭に立って勉強し、自社に置き換えたら、導入したらどうかを考え進めておられます。そういう会社は従業員の定着率が良く、業績も維持でき、取引先や地域の評判も良いのではないのでしょうか。

その時代にあった役に立つ様々な商品やシステムが開発され、進化しています。まずはそれに目を向け、耳を傾け、体感してみることが大事です。2025年問題、2040年問題は間近に迫り、労働人口はますます減少していきます。見る目を養って、よく吟味しチャレンジしていくということが大事ではないのでしょうか。



長嶺 堅二郎